

2017年12月

第28回(2017年度)タカシマヤ文化基金受賞決定

11月14日(火)に行われました公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第28回タカシマヤ美術賞受賞者が決定いたしました。本年度の美術賞受賞者は陶芸の伊藤剛俊(イトウゴウジュン)さん、現代美術の目【mé】(メカガアイ) (南川憲二さん、荒神明香さん、増井宏文さんのユニット)、現代美術の宮永愛子(ミヤノアイコ)さんの3名。団体助成は今回該当がございませんでした。なお贈呈式は、平成30年1月22日(月)午後6時より、日本工業倶楽部3階大ホールにて開催いたします。

タカシマヤ文化基金について

弊社はこれまで、豊かな生活文化の創造に貢献するため、「生活に美を、潤いを」を標榜、明治42年に美術部を創設し、和・洋問わず芸術作品を世に紹介して参りました。

近年国際化や情報化の進展に伴う社会環境の変化により、精神的・文化的な豊かさがより求められるようになる中、弊社は有能な作家の発掘支援と豊かな芸術文化の創造をめざし、平成2年に「公益信託タカシマヤ文化基金」を設立し、新鋭作家個人への助成、および美術文化の発展に寄与した団体への助成を行っております。毎年「タカシマヤ美術賞」として作家個人には200万円、そして団体に対しましては総額200万円を上限とした支援を行っております。

I 『タカシマヤ美術賞 (助成金 各200万円)』

●伊藤 剛俊 <陶芸>



伊藤剛俊さん



鐵透彫花器(2017年)



1981年埼玉生まれ、2002年大学中退後益子・長谷川陶苑に勤務。2006年独立し2007年築窯。伊藤氏の作品は、これまで銅やその他の金属で作られてきた器を陶器で作っているように見え、非常に新鮮な印象を受ける。また陶土や磁土で成形された器は「使う」という一義的な目的だけでなく、「表現する」という意味合いにもウェイトが置かれているように見える。最近多く見かける装飾過剰の陶芸オブジェとは異なり、説得力のある独自表現が感じられる。

白磁透彫香炉(2017年)

みやなが あいこ
●宮永 愛子 <現代美術>



宮永 愛子さん

Photo by MATSUKAGE

©MIYANAGA Aiko

Courtesy Mizuma Art Gallery



みちかけの透き間

撮影：木奥恵三



栗 -story of the droplets-2016

撮影:木奥恵三

1974年京都生まれ、1999年京都造形芸術大学美術学部彫刻コース卒業、2008年東京藝術大学美術学部 先端芸術表現専攻修士課程修了。2006年アジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) 助成により米国滞在、2007年文化庁新進芸術家海外留学制度により渡英、2013年日産アートアワード 2013 グランプリ受賞等。主な展覧会は、2010年「あいちトリエンナーレ」愛知芸術文化センター (愛知)、2012年個展「宮永愛子：なかそら-空中空-」国立国際美術館 (大阪)、2017年大原美術館有隣荘「宮永愛子個展 (みちかけの透き間)」等。

宮永氏は日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩を使ったインスタレーションなど気配の痕跡を用いて時間を視覚化する作品で注目を集めてきた。作品の特徴は、造形的に美しく繊細なオブジェやインスタレーションそのものだけではなく、そこから私たちの感性を触発し目に見えない時間の積み重ねや、土地の歴史、個々人の記憶を巡る旅へと私たちを誘ってくれる所にある。宮永氏の紡ぎだす詩的な美術は常に変貌を遂げ進化を続け、私達の生きる世界とは何かを静かに問いかける壮大なスケールをもつ美術であるといえる。

●目【mé】^{みなみがわけん じ} (南川憲二、^{こうじんはるか} 荒神明香、^{ますいひろふみ} 増井宏文) <現代美術>



目【mé】

(左から南川憲二さん、荒神明香さん、増井宏文さん)

photo:Takahiro Tsushima



タイトル:repetition window

制作:2017年

実施場所:宮城県石巻市被災地エリア

主催:Reborn-Art Festival



タイトル:repetition window

制作:2017 年

実施場所:宮城県石巻市被災地エリア

主催:Reborn-Art Festival

現代芸術活動チーム「目【mé】」は、ディレクターの南川憲二、アーティストの荒神明香、制作統括の増井宏文3名からなる。ユニークな空間表現をもち、「ある場所の特性を捉えつつ、そこに新たな『状況』を作り出す」作品で知られる。たとえば、資生堂ギャラリーではホワイトキューブの展示室をホテルの客室フロアに改装、2015年さいたまトリエンナーレでは水の上を歩ける池を出現させた。彼らの作品を体験するとどこか懐かしく親しみが感じられ予期せぬ驚きが生まれる。2015年憶測の成立（越後妻有トリエンナーレ）、2016年迷路のまち～変幻自在の路地空間 2016～（瀬戸内国際芸術祭）、Elemental Detection(さいたまトリエンナーレ)、2017年信濃大町実景舎（北アルプス国際芸術祭）等。

個人のプロフィール:

- ◆南川憲二 1979年大阪生まれ、2009年東京藝術大学大学院美術研究科修了後、wah document(わうどきゅめんと)を立ち上げ、各地で活動を展開。
- ◆荒神明香 1983年広島生まれ、2009年東京藝術大学大学院美術研究科修了後、アメリカ、ブラジルなど国内外で作品を発表、瀬戸内国際芸術祭「犬島」にて常設展示中。
- ◆増井宏文 1980年滋賀生まれ、2008年佛教大学教育学部資格課程修了、2009年～14年京都造形芸術大学非常勤講師、wah document(わうどきゅめんと)運営メンバーとして活動。

以上